

# 比企郡川島町の「古式板碑」

諸岡 勝

はじめに

- 一 川島町の板碑
- 二 川島町の「古式板碑」
- 三 古式板碑の概要

おわりに 周辺地域の古墳と「古式板碑」

はじめに

板碑は、宝篋印塔や五輪塔とともに全国的に分布する中世石塔の一種である。埼玉県に所在する板碑は、秩父や比企郡小川町下里に露出する緑泥石片岩を原材としているため、その基数は、県内だけでも二万七千基あまりが確認されている。このうち最古は、嘉祿三年(一二二七)銘の図像板碑で、以後、荒川中流域に広まり、一二七〇年代以降は、埼玉県をはじめ東京都や群馬県、茨城県などの周辺地域に急速に広まった。初期の板碑について千々和實は、およそ建長年間(一二五〇年代)までの板碑を「初発期板碑」と名付けて、これらの板碑が荒川中流域の北埼玉、大里などの地域と入間川の支流である都幾川流域の比企地域を中心に分布し、武蔵武士とくに武蔵七党の丹党に属する丹治氏(加治氏)が板碑造立の担い手であったことを指摘している(1)。

一方、近年では、『板碑の考古学』に代表されるように、考古学の分野から研究する論文が増えている(2)。とくに磯野治司は考古学の手法で

埼玉県内はもとより武蔵型板碑が分布する地域の形式分類や編年について研究を進め、千々和實の提唱した初発期板碑の種子形態を詳細に分類し、分布や存続時期等の具体的な解明に大きな成果をあげている(3)。本稿では、磯野治司の一連の成果をもとに、比企郡川島町の初発期と考えられる板碑を例に若干の検討を加える。こうした作業は、摩滅や欠損により、今まで等閑視されていた川島町の初発期板碑が、どの程度所在しているかを把握するとともに、紀年銘が確認できず今まで見過ごされていた板碑について、検討するための素材にしたいと考えている。

なお、本稿では後述するように対象となる板碑を「古式板碑」の呼称のもとに論を進めることとした。

## 一 川島町の板碑

川島町は、埼玉県の中央部に位置し、北は吉見町、南は川越市、東は桶川市、北本市、上尾市、西は坂戸市、東松山市に接し、比企郡の東南端に位置する四二・一一キロ平方メートルの面積をもつ町である。平均の海拔は一四・五メートル。北は市野川、東は荒川、南を入間川、西を都幾川の河川に囲まれた低平な水田地帯となっている(4)。

川島町の板碑調査は、戦前に遠山荒次や旧埼玉県史の編纂の過程で調査され、その成果の一部は『旧埼玉県史』などに反映されているが、町内板碑の組織的調査は、昭和四〇年代に千々和實を中心に進められた東国板碑調査団により調査され、二五八基が収録されている(5)。また、昭和五二年度から調査団の成果をもとに埼玉県教育委員会により悉皆調査が実施され、六六地点、三一五基が確認された(6)。その後、川島町史の編纂事業の一環として平成八年と九年度にかけて、調査を実施し町外所在を含めて七九四基を確認し、『川島町の板碑』として刊行した(7)。以下、同書の成果をもとに概要を紹介する。

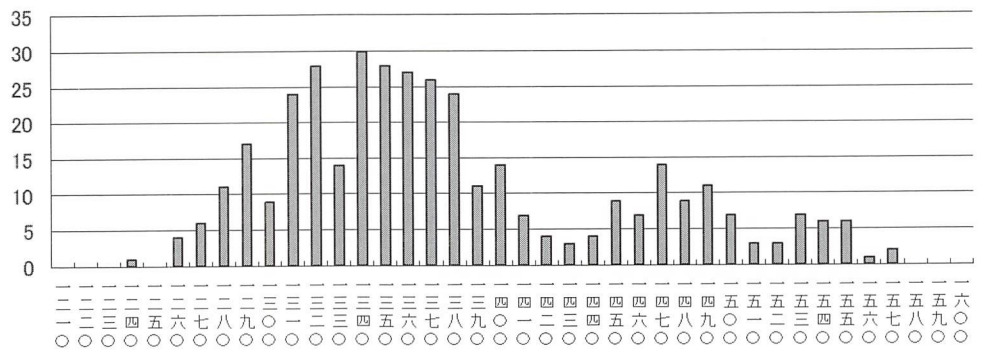


図1 造立推移(10年毎)

川島町の板碑は、報告書によると、七九四基が収録されている。その内訳は、町内各所に所在六五〇基、町外移動六七基、記録によるもの七七基である。町外の板碑の殆どは東村山市徳蔵寺が所蔵する板碑である。

図1は、一〇年毎のグラフである。四〇一基に紀年銘があり、西見寺の仁治二年(一二四二)銘阿弥陀一尊種子を最古として、鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて多く造立され、その後減少し一四〇〇年代なかばの室町時代に再び増加し、元龜三年(一五七二)銘の申待供養の板碑で終焉を迎えている。この傾向は、埼玉県全体と推移と大凡、同じ経過である。

二 川島町の「古式板碑」

前述したように千々和實が提唱した初発期板碑は、概ね一二五〇年代までの板碑を対象とするが、この区切りは、とくに明確にされていない。おそらく一二七〇年代から八〇年代にかけて、埼玉県内のみならず周辺地域に急速に拡大する板碑の種子や外形的な変化が根底にあったものと考えられる。この時期区分はその後においても踏襲され、磯野論文も嘉禄三年から康元元年(一二五〇)



図2 古式板碑の分布



を初発期板碑として扱っている(8)。試みに外形の変化を板碑の幅でみると川島町の例では、

一二六〇年～七〇年代 幅三六・三 cm、

一二八〇年代 幅三三・〇 cm、

一二九〇年代 幅三〇・〇 cm

年代が下がるほど細身となり、厚さも一二八〇年代以降は平均二～三 cm 程度に推移する。高さについては、欠損が多く正確な数値は得られないが、幅に対して三～四倍の比率となっている。また側面も背面を狭めるように「フ」の字型に加工され、軽量化が図られている。それに比べ、西見寺の仁治二年(一二四二)銘は、幅五四・〇 cm、厚さ一〇・〇 cm、高さ一四〇・〇 cm と大型で厚みがあり本尊種子も大きく彫られ、当然ながら初発期の特徴を備えている。こうした点から対象とする板碑は、①幅が四〇・〇 cm 以上、②厚さ四・〇 cm 以上、③本尊種子は磯野治司が示した初発期板碑の形態(一四形式)に類するもの、この三点のうち二点以上該当する板碑を表1にまとめた。①②のように幅や厚さを選定基準としているため、弘安年代以降のものも含まれるが、これらを「古式板碑」と仮称し検討を加えることとしたい。

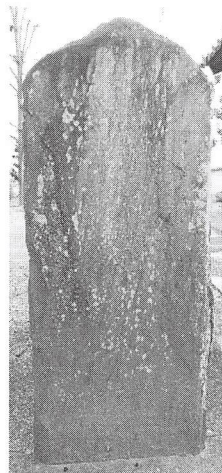
図2は表1で対象とした三六地点五六基の分布である。川島町を六地区に分けると中山地区一三地点・一九基、伊草地区六地点・一〇基、八ッ保地区四地点・四基、三保谷地区四地点・八基、出丸地区二地点・二基、小見野地区七地点・一三基となり、町内に現存する六五〇基の八・五%を占める。これらの立地は、板碑全体と同様に古代の古墳や中世の遺跡などと重なり、その多くは各河川の自然堤防上に所在している。人々の暮らしを支えた場所に営まれていたことが理解される。

### 三 「古式板碑」の概要(番号は地点番号を示す)

#### 1-1 阿弥陀一尊種子板碑 中山 善心寺

高一〇七・四 cm 幅四四・〇 cm 厚さ七・〇 cm (拓影図・種子模式図1)

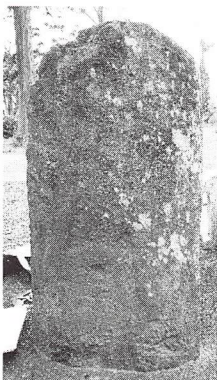
下部を欠損。蓮座上に阿弥陀種子キリークをやや浅い葉研彫で大きく配置する。イー点二画の先を反転した表現をとり、上下に長い種子形態である。頭部山形の下に羽刻みを有し、細線で二条線と枠線を表す。側面は丸みを帯びたコの字型で背面側に拡がるように弧を描く。背面は扁平で摩滅し、わずかに整形痕がある。佐間式b類に分類される。



#### 1-2 阿弥陀一尊種子板碑 中山 善心寺

高七四・〇 cm 幅四三・〇 cm 厚九・五 cm (拓影図・種子模式図2)

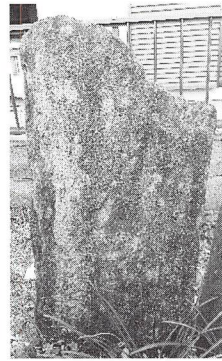
頭部の右側に斜めに大きな剥離がある。山形とおぼしき角度をつけ、羽刻み二条線などの意匠はなく素面である。キリークは、ラ点の斜め線がカ点から伸びる独特な形態をもつ。この形式は、後述する西見寺を初現とし、川島町だけでも五基確認できる。側面は不整形なフの字型(図3)で、背面へと厚みを増しながら中央を最大厚とするが一定ではなく上部は四・〇 cm と薄くなっている。背面は視認した限りでは数か所にタガネ痕を残す。西見寺型に分類される。



2 建長年間銘阿弥陀一尊種子板碑 中山 東光寺

高一〇四・〇 幅四九・五 厚七・五(拓影図・種子模式図2)

上部欠損。左右に広がった楕円状で安定感のある蓮座にキリークを薬研彫とする。イー点とカ点の先が長く伸び、とくにカ点の先端は蓮弁にかかる。蓮座の下中央にかすかに「建」とあり、建長年間(一二四九～五六)の造立と考えられる。側面は崩れたコの字型(図3)で、側面は細かい削り磨きが残る。背面は比較的扁平で摩滅している。



3 阿弥陀種子板碑 中山 正泉寺

高一〇七・〇 幅五五・五 厚一一・五(拓影図・種子模式図3)

上半部のみの破片。頭部表面は扁平で二条線を線彫し粹線を廻らす。キリークは、ラ点の斜めの線がカ点から伸びる西見寺型である。イー点第二面の先端をわずかに反転させる。下部に「明治」の追刻があり供養塔婆として再利用されたと考えられる。側面は逆フの字型(図3)で背面が幅広である。側面に幅〇・八cmの削りと磨き痕が明瞭に残る。背面は処々に凹凸がある。



4-2 別掲

5-1 正元二年銘阿弥陀一尊種子板碑 中山 西念坊

高一五四・〇 幅五八・五 厚一一・〇(拓影図・種子模式図5-1)

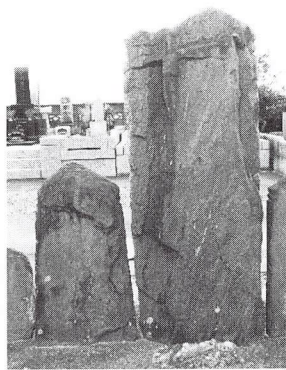
下部がどの程度埋まっているか不明であるが頭部山形の一部を除き、ほぼ完形である。羽刻みあり、二条線、粹線は線彫とする。キ

リークは、西見寺型の形態であるが、カ点から直接ラ点を伸ばしている。下部左右に「正元二年(一二六〇)」「二月八日」の紀年銘があり、中央に享保十二年(一七二七)に百カ日にわたり近村を廻り念仏三昧行をした旨の銘文が刻まれている。側面はコの字型(図3)であるが、背面に大きな剥離があり、所々に深い凹みがある。

5-2 阿弥陀三尊種子板碑 中山 西念坊

高八七・五 幅四九・五 厚一〇・〇(拓影図・種子模式図5-2)

全体に摩滅し右側が一部剥離。上部幅が三九・〇cmと下部と一〇cmの差があり安定感がある。頭部下に羽刻みと二条線(摩滅をつける。浅い薬研彫りでキリーク・サ・サクを刻む。キリークのカの第三画、第四画が小さく丸みを帯びる。側面は丸みのあるコの字型。背面は、下部に比べ頭部山形部分が大きく突起する。山形を整えるため細かい突きの痕跡が確認できる。



6 阿弥陀一尊種子板碑 中山 延命寺

高八〇・〇 幅四八・〇 厚一〇・〇(拓影図・種子模式図6)

上半部の破片。頭部山形の一部が欠損し剥離している。二条線、蓮



座上にキリークを刻む。キリークは、左に上向きイ点二画の先を反転する。来迎の弥陀を表現したと推察される。側面は丸みを帯びてはいるが不整形である(図3)。背面はチョウナ状に調整痕がある。

7-1 阿弥陀一尊種子板碑 南園部 正福寺

高二三・五 幅六四・〇 厚八・〇(拓影図・種子模式図7)

上部欠損、蓮座上にキリークを葉研彫りとする。蓮座は2と異なり、蓮弁が立ち上がっている。蓮座下の剥離のため、紀年銘は不明で「□元年□」、左右に「光明遍照 十方世界念仏衆生 攝取不捨」の偈を刻む。「南そのべ」は追刻。側面はコの字型。削り磨きの整形痕がある。背面は扁平に仕上げる。

7-2 阿弥陀一尊種子板碑 南園部 正福寺

高六三・〇 幅二一・〇 厚三・五(拓影図・種子模式図7)

キリークと蓮座の一部、左下部の破片で、剥離により、約半分の厚さである。「順次決定 往生極楽」の偈を刻む。側面コの字型。削り磨きの整形痕がある。

7-3 胎藏界大日種子板碑 南園部 正福寺

高八九・〇 幅四三・〇 厚六・〇(拓影図73)

大日如来種子アの上部分を欠損する。光明真言を刻む。側面は削り磨きのあるコの字型(図3)、背面は扁平に整形。

8-1 阿弥陀一尊種子板碑 南戸守 南戸守霊園

高八四・〇 幅三六・〇 厚四・五(拓影図・種子模式図81)

頭部は素面で羽刻みがある。蓮座、キリークともに左にやや傾き、安定感に欠ける。側面はコの字型。背面は数カ所に押し削り痕がある。江戸時代に墓石に転用した銘文がある。

9 阿弥陀一尊圖像板碑 長楽 路傍

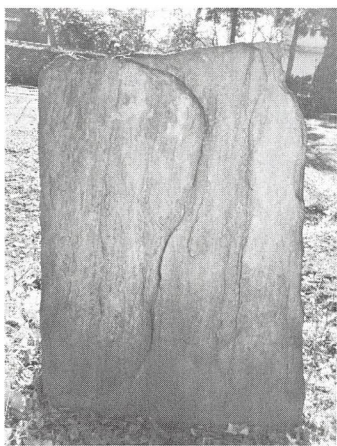
高二四・〇 幅五六・五 厚一〇・〇(拓影図・種子模式図9)

頭部は不整形で左に合わせて右を粗く整形し山形とする。光背を彫りくぼめた中に蓮座と定印を結ぶ阿弥陀如来と考えられる坐像を半肉彫りとする。側面右はコの字型、左はフの字型に整形し仕上げが異なる(図3)。背面は、平滑に磨きをかけ、江戸時代の「大乘經一千部奉納」の供養塔とする。

10 阿弥陀三尊種子板碑 正直 地藏堂

高一六一・〇 幅一〇二・〇 厚二一・〇(拓影図・種子模式図10)

幅が一〇〇cm強と大型で、頭部は不整形。四角い板状の表面に左下方に寄せてキリーク・サ・サクを葉研彫りとする。三尊とも独特な形態である。側面はいびつな半円型(図3)で、背面は右に大きな剥離がある。本尊の位置からみて下部はかなり埋まっていると考えられる。以前は、橋に利用され、キリーク左側に「奉建立橋供養」明和六年二月吉祥日」の銘があり、明和六年(一七六九)に橋に利用されていたことがわかる。



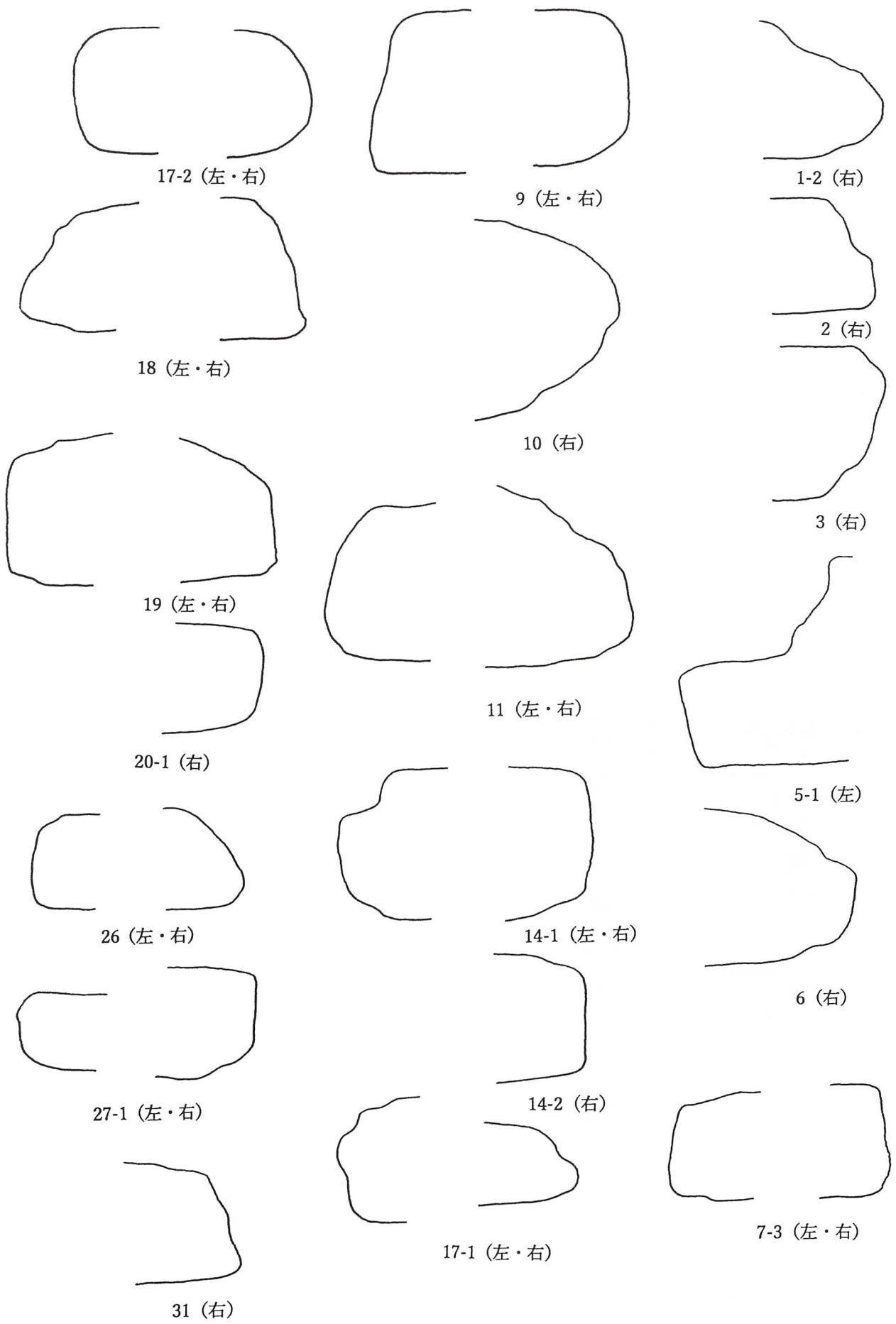


图3 侧面形状



11 阿弥陀一尊種子板碑 北園部 医音寺

高一〇一・〇 幅四八・〇 厚二二・五(拓影図・種子模式図11)

頭部のやや粗い山形の下に二条線、枠線を引く。キリークは、命点とカ一画、カ三画とラ点一画を合わせて彫り、イー点、カ三画の先端を伸ばし、イー点の先を反転させる。側面右はフ型、左はコの字を崩した形(図3)で背面は粗く工具による加工痕が周囲にみられる。

12 仁治二年銘阿弥陀一尊種子板碑 吹塚 西見寺

高一四〇・〇 幅五四・〇 厚一〇・〇(拓影図・種子模式図12)

頭部は不整形な山形とし素面。右側面に沿って下部まで欠損している。キリークは、ラ点の斜め線がカ点から伸びる独特な形態をもつ。中央に「仁治二年大才壬丑十月廿四日」の紀年銘があり、磯野論文では西見寺型と命名し、この形式の基準作例としている。側面は丸みのあるコの字型である。背面は平らで摩滅している。

13 阿弥陀三尊種子板碑 吹塚 墓地

高一〇一・〇 幅三九・〇 厚一六・〇(拓影図・種子模式図13)

頭部山形の下に二条線と羽刻みがある。キリーク、サ、サクを葉研彫りとする。

14-1 阿弥陀三尊種子板碑 虫塚 観音堂

高一七二・〇 幅六五・〇 厚一一・〇(拓影図・種子模式図14)

頭部山形の下に幅広の二条線。蓮座上にキリークとサ、サクの阿弥陀三尊を葉研彫りする。銘文は摩滅が進み紀年銘は不明であるが、「造立卒塔婆・・・」の願文と「若人求仏慧」以下の偈を刻む。側面はコの字型(図3)で背面は全体に摩滅し頭部に山形を調整した際の凹みがある。種子形態は鎌倉後期と考えられる。

14-2



阿弥陀一尊種子板碑 虫塚 観音堂

高六七・〇 幅四二・〇 厚五・五(拓影図・種子模式図14)

右の板碑に並んで建つ。上半部の破片で頭部や左側が大きく欠損する。キリークと蓮座部分も筋目が入り荒れている。側面はコの字型(図3)で背面は摩滅している。

16 阿弥陀種子板碑 上小見野 光善寺

高六七・〇 幅四〇・〇 厚三・〇(拓影図(写真)16)

蓮座以下を欠損の破片。頭部山形の下に二条線を施し、キリークは葉研彫りとする。

17-1 阿弥陀三尊種子板碑 上小見野 法鈴寺

高九六・〇 幅四三・〇 厚五・〇(拓影図・種子模式図17)

頭部山形の左が欠損し剥離もある。二条線下に涅槃点(クー点)を彫る。キリーク、サ、サクの三尊は細身で、キリークはラ点から伸び

イ一点に交わるいわゆる莊嚴体の種子である。側面左右の厚みが異なり右はコの字型(図3)である。背面は右側面の一部に剥離があり、全体に摩滅している。

17-2 阿弥陀三尊種子板碑 上小見野 法鈴寺

高二三・〇 幅五三・〇 厚八・〇(拓影図・種子模式図17-2)

山形の低い頭部下に二条線、安定感のある蓮座上にキリーク、その下にサ、サクを刻む。下部を斜めに欠損。中央に「□□三□巳乙九月□日」とある。寛元三年(一二四五)に比定できるが他の事例と比較する必要がある。側面は丸みのあるコの字型(図3)で背面は全体に平滑で押し削り痕がある。左に明和七年(一七七〇)の追刻がある。

17-3 阿弥陀一尊種子板碑 上小見野 法鈴寺

高二二〇・〇 幅三三・〇 厚四・五(拓影図・種子模式図17-3)

頭部山形に二条線。葉研彫りのキリークを刻む。全体に摩滅している。鎌倉後期の種子形態。

18-1 阿弥陀一尊種子板碑 下小見野 個人墓地

高一〇〇・〇 幅二三・五 厚七・五(写真・種子模式図18-1)

頭部の低い山形の下に羽刻み、二条線を引く。ラ点二画を伸ばし、イ一点に交わる。イ一点に涅槃点を絡ませた莊嚴体とされるキリークである。側面はフの字型(図3)。背面上部は剥離し四cm程度の厚みである。

18-2 阿弥陀一尊種子板碑 下小見野 個人墓地

高七三・〇 幅四七・五 厚八・〇(写真・種子模式図18-2)

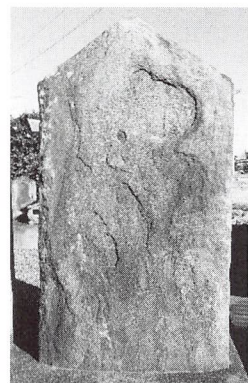
上下が欠損し、蓮座とキリークが分断された破片。側面、背面は、調査時点でほとんどが土中に埋まっていたため不明。

19 阿弥陀種子板碑 虫塚 個人墓地

高九七・〇 幅五三・〇 厚七・五(拓影図・種子模式図19)

頭部山形に羽刻み。二条線はなく素面。蓮座上にキリークを大きく刻む。側面はコの字型(図3)。

削り磨きをつける。背面は平滑に仕上げるが所々に丸い剥離の箇所がある。



20-1 弘安七年銘阿弥陀三尊種子板碑 一本木 円泉寺

高九〇・〇 幅五二・〇 厚八・〇(拓影図・種子模式図20-1)

上下を欠損する破片。阿弥陀三尊の脇侍サ、サクを蓮座上に刻む。中央に「弘安七年(一二八四)甲申七月日」の紀年銘がある。側面はコの字型(図3)だが基部付近は前方に造り出しているため厚みが増している。背面は一部剥離し摩滅している。

20-2 阿弥陀三尊種子板碑 一本木 円泉寺

高一四八・〇 幅四五・〇 厚一五・〇(拓影図・種子模式図20-2)

頭部の山形は素面。蓮座上にキリーク、サ、サクの三尊を刻むが全体に剥離がある。とくにキリーク中央が激しく、橋に利用された時期があったようである。側面はコの字型。背面は剥離がある。

20-3 阿弥陀一尊種子板碑 一本木 円泉寺

高九三・〇 幅四五・〇 厚一四・〇(拓影図・種子模式図20-3)

頭部山形の下に二条線を引く、キリークのカ点三画四画は短小で浅い葉研彫りとする。下部側面に欠損があり、全体に剥離、摩滅がある。背面は剥離があり、側面は不整形で右側の一四cmに対し左側は七cmをはかる。



表1 川島町古式板碑一覧

地点番号	図版番号	拓本写	種子図	本尊		銘文	備考	高	幅	厚	所在地	報告書番号
1	1-1	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座			107.4	44.0	7.0	中山1823 善能寺	1-3-6
	1-2	○	○	阿弥陀一尊種子				74.0	43.0	9.5		1-3-7
2	2	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座			104.0	49.5	7.5	中山1155 東光寺	1-4-6
3	3	○	○	阿弥陀一尊種子				107.0	55.5	11.5	中山1209 正泉寺	1-7-8
4	4-1	○	○	阿弥陀一尊種子				109.0	38.5	8.5	中山1198 金剛寺	1-5-5
	4-2			阿弥陀三尊種子				98.0	55.0	8.0		1-5-6
5	5-1	○	○	阿弥陀一尊種子		正元二年		154.0	58.5	11.0	中山1238 西念坊	1-6-1
	5-2	○	○	阿弥陀三尊種子				87.5	49.5	9.0		1-6-5
6	6	○	○	阿弥陀種子	蓮座			80.0	48.0	10.0	中山1285 延命寺	1-13-6
7	7-1	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座	光明遍照偈		132.5	64.0	8.0	南園部310 正福寺	1-8-8
	7-2	○		阿弥陀一尊種子	蓮座		剥離	63.0	21.0	3.5		1-8-10
	7-3	○		胎藏界大日種子	蓮座		上部欠損、摩滅	89.0	43.0	6.0		1-8-11
8	8-1	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座		改刻、墓碑に利用	84.0	36.0	4.5	南戸守31 共同墓地	1-27-7
	8-2			阿弥陀一尊種子	蓮座		改刻、墓碑に利用	197.0	48.0	7.5		1-27-8
9	9	○		阿弥陀一尊図像	蓮座		裏面、改刻	124.0	56.5	10.0	長楽1079 町道沿	1-35-1
10	10	○	○	阿弥陀三尊種子			石橋供養	162.0	102.0	11.0	正直646 地藏堂	1-24-1
11	11	○	○	阿弥陀一尊種子				101.0	48.0	10.0	北園部202 医音寺	1-18-1
12	12	○	○	阿弥陀一尊種子		仁治二年十月廿四日		140.0	54.0	10.0	吹塚232 西見寺	1-14-1
13	13	○	○	阿弥陀三尊種子				101.0	39.0	6.0	吹塚40 個人墓地	1-15-3
14	14-1	○	○	阿弥陀三尊種子	蓮座	若人求仏偈		172.0	65.0	11.0	虫塚206 観音堂	6-6-1
	14-2	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座			67.0	42.0	5.5		6-6-2
15	15					交名16名ほか	上部欠損	86.0	60.0	4.0	下小見野374-1 個人墓地	6-16-6
16	16	○		阿弥陀種子	蓮座		上部片、剥離	67.0	40.0	3.0	上小見野633 光善寺	6-8-2
17	17-1	○	○	阿弥陀三尊種子				96.0	43.0	5.0	上小見野155 法鈴寺	6-11-4
	17-2	○	○	阿弥陀三尊種子	蓮座		追刻	133.0	53.0	8.0		6-11-5
	17-3	○	○	阿弥陀一尊種子				120.0	33.0	4.5		6-11-8
18	18-1	○	○	阿弥陀一尊種子				100.0	31.5	7.5	下小見野743 個人墓地	6-15-1
	18-2	○		阿弥陀一尊種子	蓮座		二分断	73.0	47.5	8.0		6-15-2
19	19	○	○	阿弥陀種子	蓮座		下部欠損	97.0	53.0	7.5	虫塚34 個人墓地	6-5-2
20	20-1	○	○	阿弥陀三尊種子	蓮座	弘安七年七月日	破片	90.0	52.0	8.0	一本木71 円泉寺	6-4-1
	20-2	○	○	阿弥陀三尊種子	蓮座		表面剥離、欠損	148.0	45.0	15.0		6-4-2
	20-3	○		阿弥陀一尊種子			下部欠損	93.0	45.0	12.0		6-4-3
21	21			阿弥陀三尊種子	蓮座		月待供養か	102.0	50.0	5.5	上八ツ林285 地藏院	5-2-3
22	22		○	阿弥陀三尊種子	蓮座	弘安七年八月廿六日	光明遍照偈	156.0	45.0	11.5	上八ツ林227 十王堂	5-5-1
23	23	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座	弘長元年八月彼岸		145.0	49.0	5.0	上八ツ林920 個人	5-17-1
24	24	○		阿弥陀種子			下部欠損	70.0	40.0	8.0	下八ツ林307 善福寺	5-10-5
25	25	○	○	阿弥陀一尊種子				120.0	56.0	6.0	上伊草1086 蓮華院	2-7-8
26	26	○	○	阿弥陀三尊種子	蓮座			77.0	39.0	4.0	上伊草1341 不動院	2-9-6
27	27-1	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座	光明遍照偈	下部欠損	107.0	52.0	6.0	上伊草830 金乗院	2-10-19
	27-2	○	○	阿弥陀種子	蓮座		下部欠損	80.0	47.0	4.5		2-10-27
28	28-1	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座		下部欠損	93.0	46.0	10.0	伊草16 大聖寺	2-4-5
	28-2	○	○	胎藏界大日種子	蓮座	光明真言		53.0/ 48.0	44.0	8.0		2-4-6
	28-3			阿弥陀一尊種子	蓮座			115.0	53.0	7.0		2-4-8
29	29	○		阿弥陀三尊種子			破片	60.0	42.0	6.0	角泉110 慈眼寺	2-2-5
30	30-1	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座			130.0	43.0	6.0	飯島4323 太子堂	2-5-2
	30-2	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座			89.0	43.0	8.0		2-5-3
31	31-1	○	○	阿弥陀一尊種子				103.0	50.0	7.0	平沼308 大福寺	3-14-3
	31-2	○				元徳元年十二月十一日	為先考聖霊	97.5	41.0	5.0		3-14-1
32	32-1	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座		全体摩滅	99.0	36.0	6.5	平沼1327 教院寺	3-13-2
	32-2	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座			104.0	40.0	5.0		3-13-3
33	33	○	○	胎藏界大日種子	蓮座			90.0	32.0	8.5	白井沼 町道沿	3-12-1
34	34-1		○	阿弥陀三尊種子	蓮座	弘安三年九月廿五日	別時念仏	100.0	39.0	4.5	表76 広徳寺	3-17-2
	34-2	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座	文永十一年	光明遍照偈	161.0	48.0	6.0		3-17-1
	34-3	○	○	阿弥陀三尊種子				90.0	52.0	11.0		3-17-4
35	35	○	○	阿弥陀一尊種子	蓮座	弘安十年十一月	天蓋あり	98.0	39.0	10.0	出丸下356 出丸下郷墓地	4-11-1
36	36	○	○	阿弥陀三尊種子				92.0	40.0	7.0	出丸本261 十輪寺	4-10-2



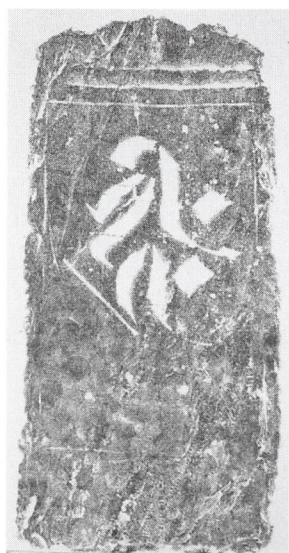


图4 拓影图(1)





12



11



10



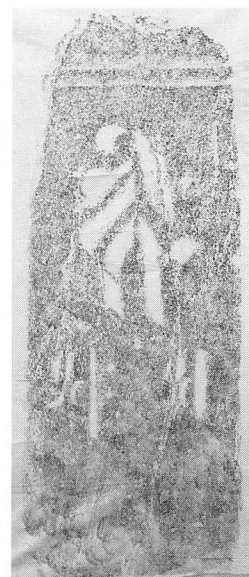
16



14-1



14-2



13



17-1

图5 拓影图(2)

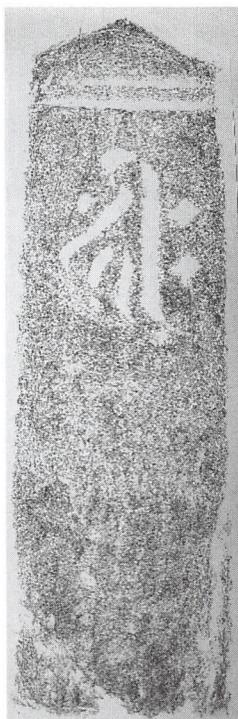




18-2



18-1



17-3



17-2



23



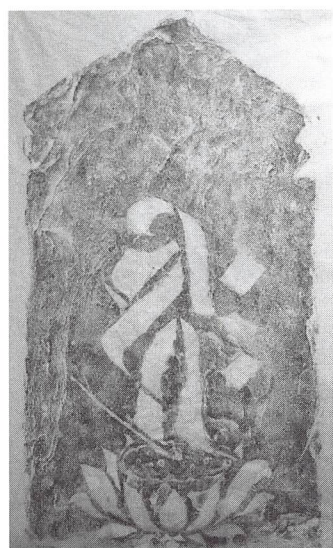
20-2



20-1



20-3



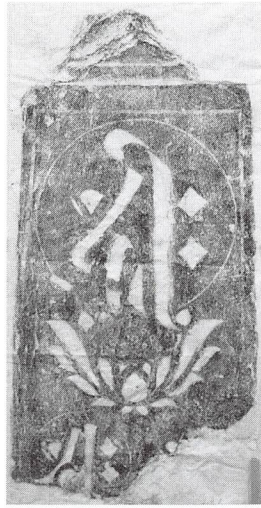
19

图6 拓影图(3)





27-1



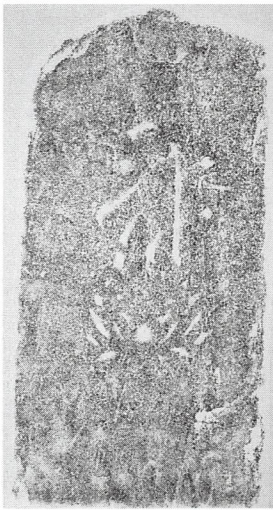
26



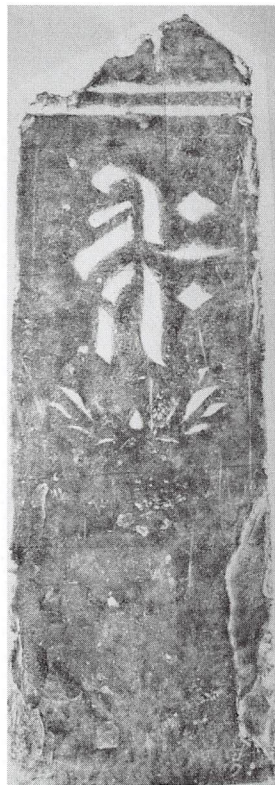
25



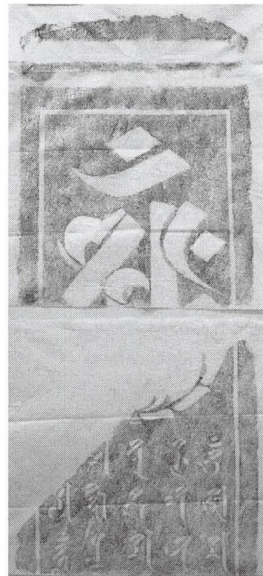
24



30-2



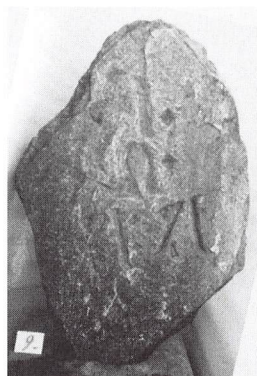
30-1



28-2



27-2



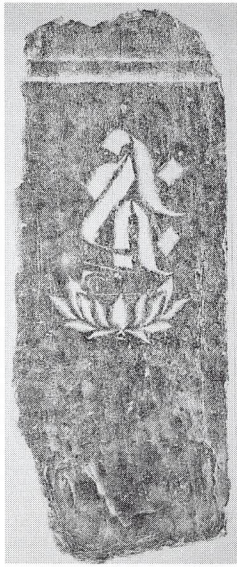
29



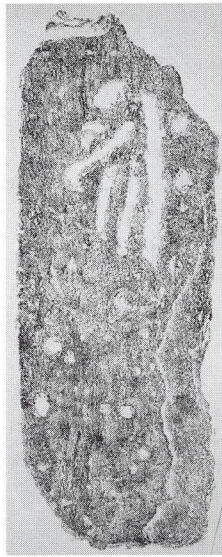
28-1

图7 拓影图(4)

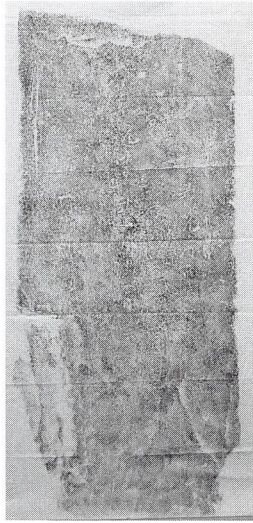




32-2



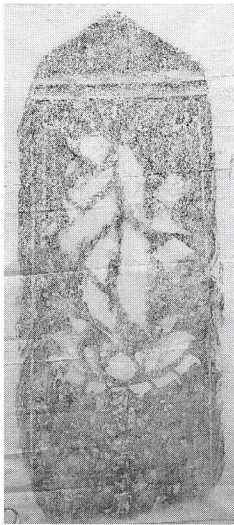
32-1



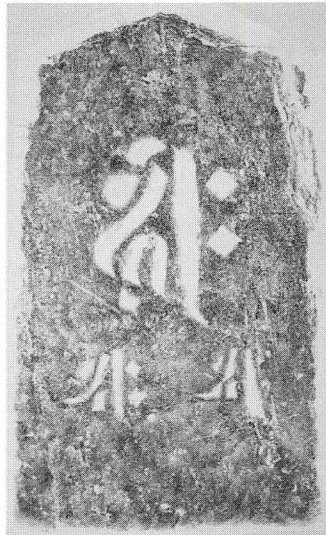
31-2



31-1



35



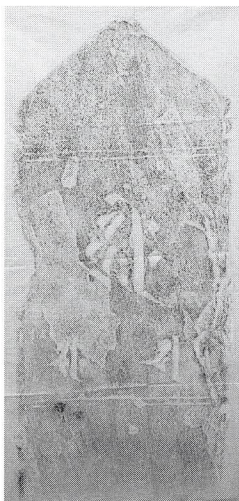
34-3



34-2



33



36

图8 拓影图(5)



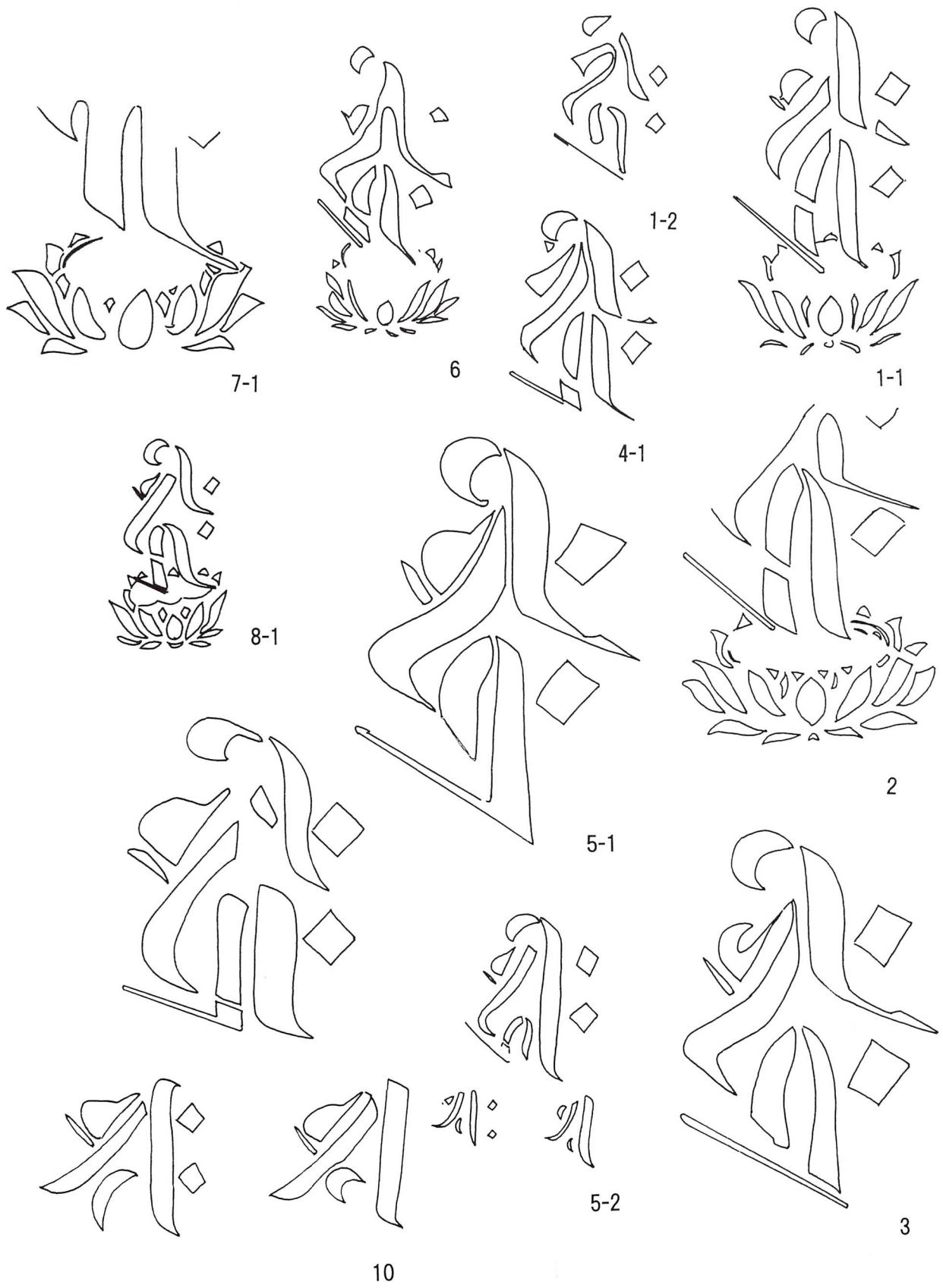


图9 梵字模式图(1)

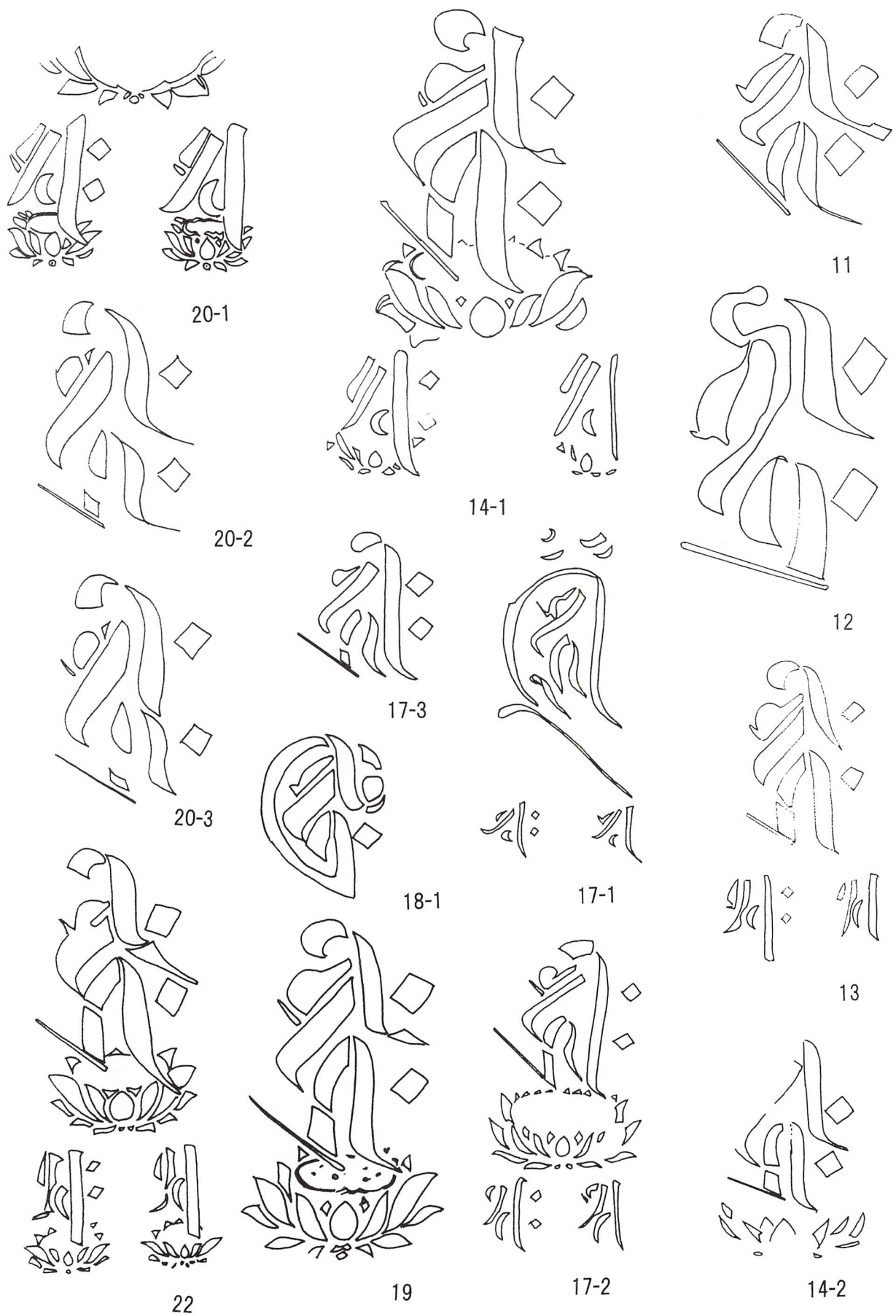


图10 梵字模式图(2)



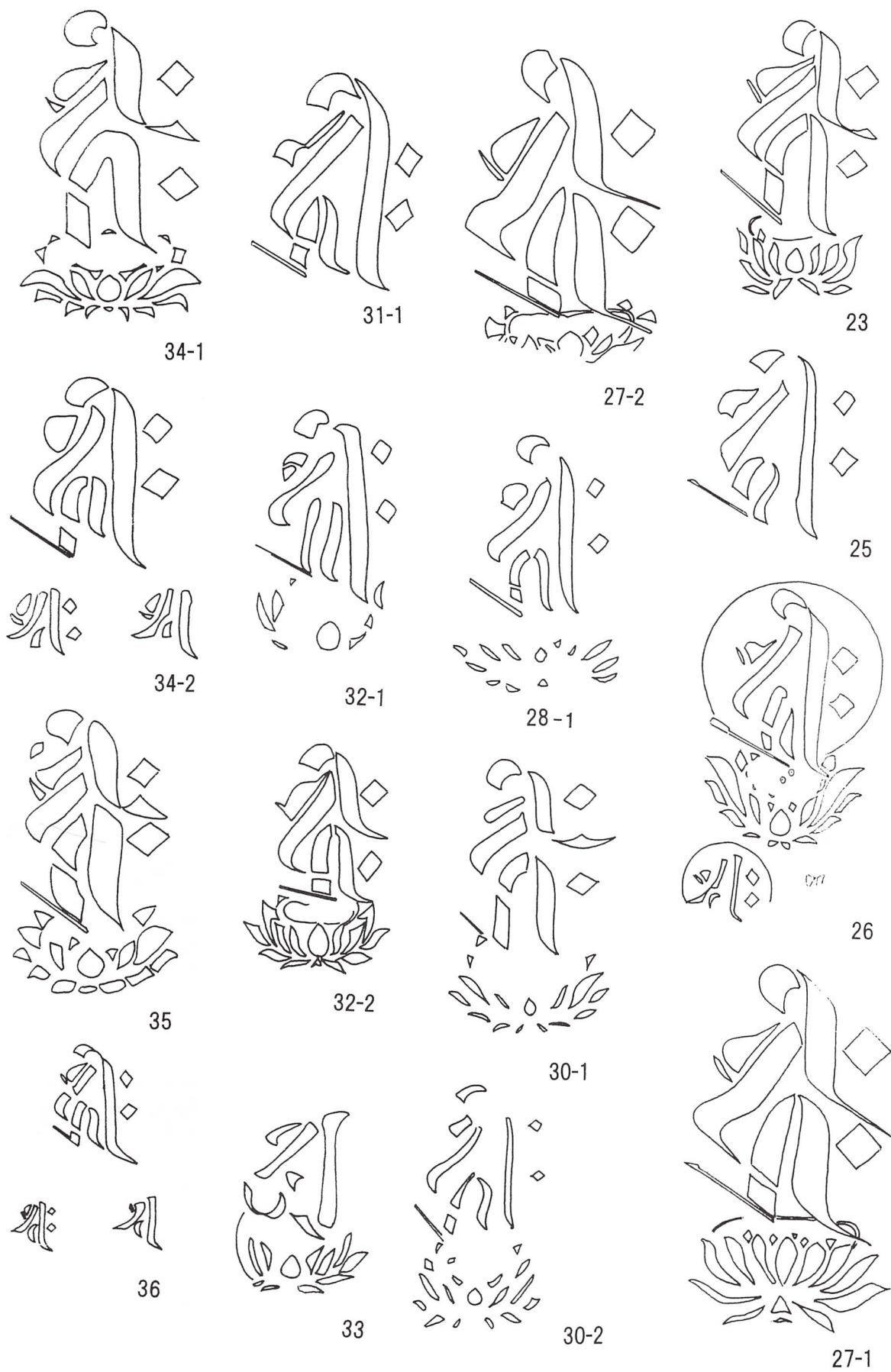


图11 梵字模式图(3)

23 弘長元年阿弥陀一尊種子板碑 上八ツ林 個人墓地

高一四五・〇 幅四九・〇 厚五・〇(拓影図・種子模式図23)

頭部は低い山形につくり、小さな蓮座にキリークと草書体で「弘長元年八月彼岸第七 □阿弥□仏敬白」の紀年銘と銘文を刻む。

24 阿弥陀一尊種子板碑 下八ツ林 善福寺

高七〇・〇 幅四〇・〇 厚八・〇(写真・種子模式図24)

不整形な頭部山形。右に羽刻み、左は欠損。キリークを浅い葉研彫りとする。摩滅が進み、現状は半分以上が土中に埋まっている。背面は摩滅し、坏状にところどころ穴がある。

25 阿弥陀一尊種子板碑 上伊草 蓮華院

高二二〇・〇 幅五六・〇 厚六・〇(拓影図・種子模式図25)

頭部山形の下に羽刻みと二条線と杵線の痕跡を残す。全体に摩滅、剥離がある。キリークのラ点が伸びる線は薄く、かろうじて蓮座両端の蓮弁の痕跡が確認できる。

26 阿弥陀三尊種子板碑 上伊草 不動院

高七七・〇 幅三九・〇 厚四・〇(拓影図・種子模式図26)

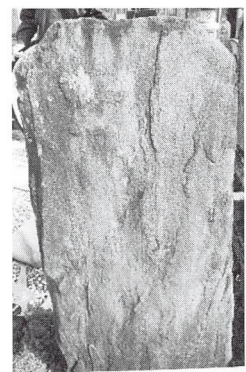
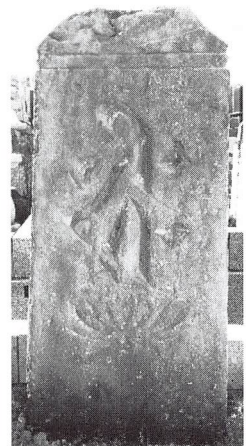
上部片で頭部山形の一部が残る。二条線の下に杵線を引き、キリークは蓮弁が上方に立ち上がった蓮座と月輪を伴う。側面右はフの字左はコの字型(図3)で削り磨きがある。背面は扁平に処理する。

27-1 阿弥陀一尊種子板碑 上伊草 金乘院

高一〇七・〇 幅五二・〇 厚六・〇(拓影図・種子模式図27-1)

先端がやや欠けた頭部山形の下に羽刻みと二条線を付ける。蓮弁は平面的で独特な意匠である。キリークの形態もカの二点を左に大きく湾曲させる。下部の銘文は四行で「光明遍照」偈を刻む。側面はコの字型(図3)。背面は摩滅し連続した割の痕跡がある。

27-2



阿弥陀種子板碑 上伊草 金乘院

高八〇・〇 幅四七・〇 厚四・五(拓影図・種子模式図27-2)

蓮座以下を欠損する上部片。頭部山形の下に羽刻みと二条線を付ける。蓮座上に大きくキリークを葉研彫りとする。前出とはほぼ同形態である。側面コの字型、背面全面に摩滅がみられる。

28-1 阿弥陀一尊種子板碑 伊草 大聖寺(拓影図・種子模式図28-1)

高九三・〇 幅四六・〇 厚一〇・〇

頭部山形の下に羽刻みと二条線を付ける。蓮座、キリークとも全体に剥離、摩滅しているため不明瞭な部分が多い。

28-2 胎藏界大日種子板碑 伊草 大聖寺(拓影図・種子模式図28-2)

高五三・〇 幅四八・〇 幅四四・〇 厚八・〇

上下に分断され、欠損部分が多い。頭部山形に二条線。杵線内の蓮座上にアーンク、下部は光明真言を刻む。

29 阿弥陀三尊種子板碑 角泉 慈眼寺

高六〇・〇 幅四二・〇 厚六・〇(写真・種子模式図29)

キリーク、サ、サクの阿弥陀三尊部分のみの破片。わずかに残る側面はコの字型、背面は摩滅している。



30-1 阿弥陀一尊種子板碑 飯島 太子堂

高三三〇・〇 幅四三三・〇 厚六〇〇(拓影図・種子模式図30-1)

頭部左を欠損。山形の下に羽刻みと二条線、杵線を付ける。蓮座上にキリークを刻む。イー点の先を反転させる。全体に剥離、摩滅がある。側面はコの字型。

30-2 阿弥陀一尊種子板碑 飯島 太子堂

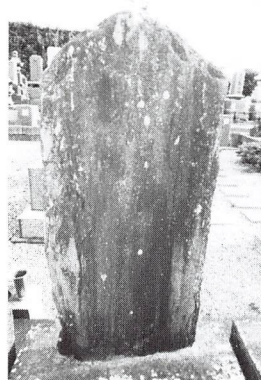
高八九〇 幅四三三・〇 厚八〇〇

頭部は低くわずかに山形状とする。素面で右に羽刻みの痕跡が残る。丸みを帯びた蓮座上にキリークを彫るが摩滅が激しい。

31-1 阿弥陀一尊種子板碑 平沼 大福寺

高一〇三三・〇 幅五〇〇・〇 厚七〇〇(拓影図・種子模式図31-1)

頭部山形の下に二条線とキリークを大きく葉研彫りとする。カ点の三画四面は短小に処理する。下に細線を引く。表面は全体に摩滅している。側面はフの字型(図3)である。背面を盛り上げ摩滅している。



31-2 元徳元年銘板碑 平沼 大福寺

高九七五 幅四一〇 厚五〇〇(拓影図・種子模式図31-2)

上部欠損し下部のみの破片。中央に「元徳元年(一三二九)己巳十二月十一日□□敬白」と光明真言を刻む。31-1と並んで建つ。

32-1 阿弥陀一尊種子板碑 平沼 教院寺

高九九〇 幅三三六・〇 厚六五五(拓影図・種子模式図32-1)

頭部山形と右上を大きく欠損。キリークと蓮座を刻む。剥離、摩滅

のため全体に不明瞭で、とくに蓮座は蓮弁の一部が残るのみである。

32-2 阿弥陀一尊種子板碑 平沼 教院寺

高一〇四〇 幅四〇〇 厚五〇〇(拓影図・種子模式図28-1)

33 胎蔵界大日種子板碑 白井沼 町道沿

高九〇〇 幅三三〇 厚八五五(拓影図・種子模式図33)

頭部山形の下に刻みのある二条線を付け、蓮座に乗った胎蔵界大日種子「ア」を刻む。

34-2 阿弥陀一尊種子板碑 表 広徳寺

高一六一〇 幅四八〇 厚六〇〇(拓影図・種子模式図34-2)

広徳寺阿弥陀堂裏の古墳上に建つ。頭部山形の下に刻みのある二条線を付け、蓮座の上にキリークを葉研彫りとする。「光明遍照」の偈と「文永十一年(一二七四)十二月」の紀年銘を刻む。側面は削り磨きをつけたコの字型で背面は摩滅している。

34-3 阿弥陀三尊種子板碑 表 広徳寺

高九〇〇 幅五二〇 厚一一〇〇(拓影図・種子模式図34-3)

頭部は素面の低い山形とし、キリーク、サ、サクを大きく葉研彫りとする。全体に剥離、摩滅がある。

35 弘安十年銘阿弥陀一尊種子板碑 出丸下郷 墓地

高九八〇 幅三三九・〇 厚一〇〇〇(拓影図・種子模式図35)

頭部山形の下に刻みのある二条線をつける。キリークと蓮座を葉研彫りとし、天蓋を付す。「弘安十年(一二八七)十一月」の紀年銘がある。

36 阿弥陀三尊種子板碑 出丸本 十輪寺



高九二・〇 幅四〇・〇 厚七・〇（拓影図・種子模式図35）

頭部山形の下に羽刻みをつける。キリーク、サ、サクは、やや小さめに葉研彫りとする。羽刻みと種子の下に二条の横線をつける。剥離が目立つが種子部分は明瞭に残る。

〔追録〕

#### 4-2 阿弥陀三尊種子板碑 中山 金剛寺

高九八・〇 幅五五・〇 厚八・〇

頭部不整形、全体に剥離、摩滅があり、右側は挟れているが当初かと考えられる。キリークは、ラ点の斜め線がカ点から伸びる形式でサ、サクの脇侍をともなう。「光明遍照」偈と「□衆已上十七人」とある銘文、背面に「南阿弥陀仏」と刻む。

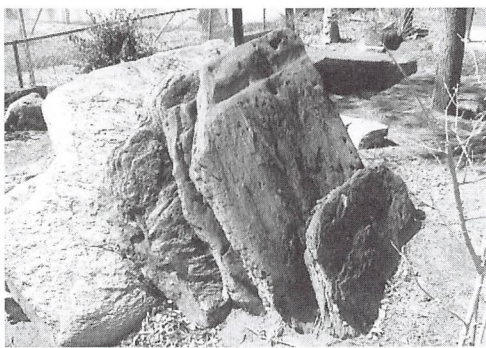


#### おわりに ―周辺地域の古墳と「古式板碑」―

以上、川島町に所在する古式板碑について概観したが、埋没により調査できなかったものや見当たらないものもあり、取り上げた板碑は、拓本や写真だけの記述を含めて四九基である。今回、改めて調査した板碑については、側面の形状や背面の整形痕について着目したが、もとより考古学の知識に乏しく、加えて十分な観察眼もなく正確を期すことはできなかつた。しかしながら、古式とした板碑は大型であるばかりでなく、側面形状はコの字型か半円型が多く左右の形状や厚さも区々で、それぞれ異なる。また背面についても、厚さを均一化するための押し削り痕も



大塚古墳 石棺



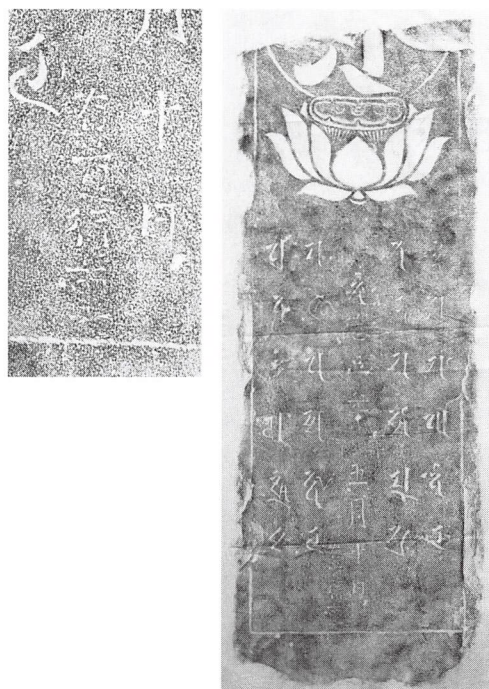
勝呂神社 古墳に使用された緑泥石片岩

無く、各地へ拡大する一三世紀後半の板碑と比べ著しい相違がある。とくに10地蔵堂（正直）所在の板碑は板状の巨大な緑泥石片岩を表裏とも、ほとんど加工することなく梵字を刻むなど、その特異性は際立っている。このように紀年銘が無くても形態から初発期とみられる板碑は相当数存在し、その一方、一二五〇年代以降であっても「古式」を保持するものもあり、紀年銘とは別に、形態で区分する見方も有効であるように考えられる。

筆者は以前、初発期の板碑分布と緑泥石片岩使用の古墳（群）分布が概ね一致すること（9）や組み合わせ式石棺を利用した板碑の事例を紹介（10）したことがある。今回の川島町の古式板碑の多くは石棺の「ほぞ」の痕跡という明確な証拠は無いが、古墳の石棺や天井材をはじめとする構造物の一部に手を加えて再利用したものと考えている。

川島町の周辺地域には、野本古墳群、柏崎古墳群（東松山市）、浅羽野古墳群、勝呂古墳群（坂戸市）、町域では三保谷古墳群、東大塚古墳群な





元徳三年銘板碑  
(有道行重の銘がある)

ど、大規模古墳群が点在し構造物材に緑泥石片岩が使用されていたことが知られている(11)。とくに、川島中学校門前に露出展示されている石棺は、東大塚古墳群の大塚古墳にあつたもので昭和三年に現在地に移され容易に観察できる。大小六枚からなり、底石と蓋石には四周に組み合わせの溝があり、側石の左右にも短辺の石を組むための溝を彫る。こうした溝の痕跡から、石棺材を利用して板碑が造られたことが明らかとなり、現在までに六基ほど確認されている(12)。また、側石の上部の縁は、削り磨きのある半円型またはコの字型など不規則な形状で古式板碑の側面形態との関連が指摘できる。

初期の板碑は、智観寺(飯能市中山)に所在する仁治三年(一一四二)銘の丹治家季供養塔をはじめ、武蔵七党に属する武士団が深く関わっていたことが銘文からわかる(13)。川島町周辺では、青蓮寺(東松山市正代)の弘安四年(一一八二)銘に児玉党小代氏が造立した小代重俊供養塔、万福寺(坂戸市北浅羽)の徳治二年(一一三〇七)銘に児玉党有道氏の浅羽行成

供養塔があり、児玉党に属する武士団が造立の担い手になっている。鎌倉時代の川島町は、水尾谷、中山、小見野などの各氏族が支配していたと考えられ、なかでも小見野氏は、児玉党有道氏の浅羽行成の子、盛行が小見野郷を開発したことに始まると伝え、板碑にも伊草金乗院に「有道行重」とある元徳三年(一一三二)銘がある(14)。

仁治二年銘をはじめとする古式板碑の多くは、地元で供給できる古墳石材の利用と武士団の存在が背景にあつたものと考えられる。

#### 付記

本稿を執筆するにあたり、三宅宗議氏、磯野治司氏、伊藤宏之氏から指導助言を得ました。とくに磯野、伊藤氏には調査に御同行いただき、側面や背面の調整法について御教示賜りました。末筆ながら感謝申し上げます。

#### 図版

- 図3 側面形状 31%に縮小、上が背面側。  
 図4～8 拓影図 約17%縮小  
 図9～11 梵字模式図 10%縮小

#### 註

- (1) 千々和實 「初発期板碑の調査―十三世紀前半の板碑―」『武蔵野』第四二巻第三号 一九六三  
 (2) 千々和到・浅野晴樹編 『板碑の考古学』高志書院 二〇一六  
 (3) 磯野治司 「初発期板碑の種子類型」『埼玉考古』39 二〇〇四  
 磯野治司 「13世紀前半武蔵型板碑の形式編年」『板碑の考古学』高志書院 二〇一六  
 (4) 『角川日本地名大辞典 埼玉県』角川書店 一九八〇  
 (5) 千々和實編 『武蔵国板碑集録―旧比企郡―』小宮山書店 一九六八

- (6) 埼玉県教育委員会 『埼玉県板石塔婆調査報告書』一九八一
- (7) 川島町 『川島町の板碑』川島町史調査資料 第六集 一九九九  
註(3)前掲書
- (8) 諸岡 勝 「武蔵武士と板碑」『東国武士と中世寺院』高志書院  
二〇〇八
- (10) 諸岡 勝 「石塔からみた騎西町周辺の中世」『騎西町史通史編』騎西町教育委員会 二〇〇五、伊藤宏之・磯野治司 「朝霞市東圓寺の石棺材転用の板碑」『朝霞市博物館研究紀要第二号』二〇〇八、磯野治司 「古墳の石棺材を転用した板碑」『考古学ジャーナル』六〇二号  
二〇一〇
- (11) 塩野 博 『埼玉の古墳』さきたま出版会 二〇〇四  
石棺材の痕跡のある板碑は六例確認できる。
- (12) ①宝治年間(一二四七～四九)銘阿弥陀一尊種子 熊谷市 光照寺  
②建長二年(一二五〇)銘 行田市 河原神社  
③文応二年(一二六一)銘阿弥陀一尊種子三尊佛像 行田市 観福寺  
④文永二年(一二六五)銘地藏菩薩佛像 行田市 観福寺  
⑤文永五年(一二六八)銘阿弥陀一尊種子 朝霞市 東圓寺  
⑥建武四年(一三三七)銘阿弥陀一尊種子 川島町出丸 個人墓地  
千々和實 「板碑源流考」『日本歴史』二八四・二八五(後に『板碑源流考』吉川弘文館、一九八七に所収)、千々和到 「東国における仏教の中世的展開」『史学雑誌』八二・一二(後に『板碑とその時代』平凡社、一九八八に所収)
- (14) 川島町 『川島町史通史編上巻』二〇〇七

### 参考文献

- 織戸市郎 「初発期板碑の系列」『日本の石仏』第12号 一九七九
- 川島町 『川島町史資料編地質・考古』二〇〇六
- 栗島義明 「緑泥片岩を用いた横穴式石室の構築―緑泥片岩の来歴と石室構築技術について―」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第5号  
二〇一〇
- 村山 卓 「13世紀後半武蔵型板碑の類型化と分布」『板碑の考古学』高志書院  
二〇一六

三宅宗議 「板碑の製作技法補説キリークb類とは何か―阿弥陀種子の坐像と立像―」『板碑の考古学』高志書院 二〇一六

四方田悟 「異体種子キリークの覚書き」『埼玉史談』第四四卷第二号